

地域に足を運び、地元の声に耳を傾ける 「土の匂い」のする現場から政治を



衆議院議員 自民党1期
藤沢 忠盛

住民票を豊田市に移し、この地に根を張って活動してまいります！

赤じゅうたんの先にあるもの

2月8日に行われた衆議院議員総選挙におきまして、豊田市・みよし市の皆様の温かいご支援のおかげで初当選を果たすことができました。心より御礼申し上げます。

皆様の一票一票の重みを

胸に、国会の赤じゅうたんにを踏ませていただきました。正直に申し上げれば、自分がその上を歩く日が来るとは思っておりませんでした。

しかし、この選挙戦を通じて強く感じたことがあります。それは、政治は赤じゅうたんの上で行うものではない、ということです。政治の原点は現場にあります。地域に足を運び、集落

に入り、地域の皆様の声に耳を傾ける。いただいたご意見を丁寧に整理し、地元議員の皆様とも相談しながら形にし、国会で政策として実現していく。これが政治の本道であると確信しております。

この現場主義は、前衆議院議員である八木哲也先生が貫いてこられた政治姿勢です。その理念を受け継ぎ、地元根ざした国政を実践

してまいります。いま、日本は大きな転換点にあります。高度経済成長期に整備された道路や橋、排水管などの都市インフラは老朽化が進み、更新が急務です。

先般、埼玉県で下水道管の破損により道路に穴が開き、車両が転落する事故が発生しました。あのような事態は決して他人事ではありません。豊田・みよしに

らお預かりした税金をこの地域の安全対策と仕事づくりにへと循環させてまいります。地元企業が受注し、地元雇用と所得が生まれ、地域経済が回る。その基盤の上に力強い経済対策を展開します。そして、その成果として得られた財源を、医療や介護、福祉、教育などへと還元してまいります。

また、氾濫が懸念される矢作川の治水対策も重要課題です。矢作川は私たちの誇りであり、暮らしを支える大切な存在です。その恵みを守りながら災害に強いまちを築くことが次世代への責任であると考えます。

牧歌的な山や野、清らかな川という豊田・みよしの魅力を大切にしながら、ものづくりを促進し、環境と調和した持続可能なまちづくりを進めてまいります。

住民票を豊田市に移し、この地に根を張って活動してまいります。赤じゅうたんではなく「土の匂い」のする現場から政治を動かす。その覚悟で歩み続けます。

改めまして、これまで賜りました皆様のご支援に深く感謝申し上げます。皆様とともにこの地域の未来を切り拓いていく決意です。どうか引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

1971年生まれ 事務所 豊田市神田町 1-5-9。国立豊田高専卒、同校元非常勤講師。金城学院大学、名古屋女子大学 元非常勤講師 昭和女子大学 環境デザイン学部 准教授を経て 2026年衆議院選挙にて初当選。慶応義塾大学大学院博士号(政策・メディア) 取得、一級建築士。